

チーム3年

府中市立第一中学校
3年学年だより
令和元年11月三者懇談日

母と語る



夜、母と話をしていました。

母は、静かな声で話しました。

なんの話かというど、

入試のことなのです。

母は、第一志望校に落ちて、

第二志望の高校へ行ったそうです。

合格発表があった日、

一步も家から出られなくて泣いて

いたそうです。

だから、世間話などで、

あの子が入ったとか、

この子は落ちたとか、

そんな話は、いっさいしません。

今になってみると、

きっとあのことが、

物の考え方に ひどく役立ったと

いっていました。

心のやさしさの大切さもよくわかった

そうです。

いろいろな人の気持ちが、

いろいろな人の立場が、

少しでもわかるようになったのは

その時の体験があったと淡々と話しました。

母は受験では失敗しました。

でも、やさしさに磨きがかかったのです。

不合格を冷たい目で見ない母を

むしろ尊敬します。

その時は悲しかったにちがいありません。

人の目を気にしたかもしれません。

でも今では、

静かな声で話します。

年月がそうさせたのでしょうか。

人間の気持ちは変わるのでしょうか。

今ではそれが、

心の強さ、やさしさになっているのです。

頭のいい、

まるで失敗を知らない、

カッコいい母でなくてもいいのです。

やさしさをたたえた母が大好きです。

夜、母との話は沢山のことを考えさせて

くれました。

話の中味から、

語っている母そのものから。

今夜、

母が一層好きになりました。

母を前より尊敬する気になりました。

母にはいろんな体験があるのです。

三月に入って、

卒業式がすむと、

ぼくの志望校の入試があります。

今夜聞いた話を胸の中にしまっておいて

します。

人は

長い長い人生を歩いていきます。

その間に、いろんなことがあるでしょ

う。

思いがけないこともあるでしょう。

目の前に迫ってきた入試

これだって、たくさんの出来事の中の

一つのことです。

母みたいに、

心の栄養にしていきたいものです。

『思春期という節目』
ハツ塚実著から